

## コンゴ（共）月例報告

2018年9月

### 【ポイント】

- 2日から11日まで、サス・ンゲソ大統領は中国を訪問し、第7回中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）に出席するとともに、5日には習近平国家主席と二国間会談を行った。同会談において、ポワント・ノワール経済特区開発に係る協力を含む複数の合意に署名した。
- 20日、サス・ンゲソ大統領主催の下開かれた閣僚評議会において、汚職対策上級局（HALC）の設置が承認された。
- 26日、プール県停戦合意臨時合同委員会が提出した中間報告書にて、6000以上の武器が旧ニンジャ戦闘員から回収されたことが明らかにされた。

◎特にソースが明記されていない場合は、「Les Dépêches de Brazzaville」、「les échos du Congo Brazzaville」、「ICI BRAZZA」、仏通信（AFP）及び仏ラジオ国際放送局（RFI）による

## 1 内政

### （1）ポラン・マカヤ氏釈放

・ 17日、拘禁から計3年2ヶ月を経て、マカヤ氏がようやく釈放された。同氏は、2015年にサス・ンゲソ大統領が計画した大統領三選を認める法改正の国民投票に反対するため、デモ行進を企画したことで「公共秩序を乱した罪」に問われ投獄され、後に「逃亡を企てた罪」で新たに訴追されていた。

### （2）汚職対策

・ 20日、サス・ンゲソ大統領主催の下開かれた閣僚評議会において、汚職対策上級局（HALC）の設置が承認された。同局は、既存の国家汚職対策委員会及び汚職監視局の両機関に替わってその任を負い、四半期ごとに大統領、首相、汚職対策の所掌大臣に対し報告書を提出する。

## 2 プール県情勢

### （1）国連がDDRに1200万ユーロの財政支援

・ 31日、ウーロジュ・ランドリー・コレラス・コンゴ（共）旧戦闘員再統合上級委員とアントニー・オーメン＝ボアマ・国連コンゴ（共）担当コーディネーターの間で、83億FCFA（約1200万ユーロ）の財政支援に係る合意署名が行われた。同支援は、旧ニンジャ戦闘員7500名へのDDR及びプール県への帰還民を対象とした事業であり、実施期間は4年を予定している。

### （2）武器回収

・ 4日、キンカラ合意フォローアップ委員会が複数の武器回収センターを訪問し、同地域の目標である3000のうち1800の武器が既に回収されたことを発表した。

・ 26日、プール県武装解除の実施を主管する停戦合意臨時合同委員会が提出した中間報告書にて、同日時点で6000以上の武器が旧ニンジャ戦闘員から回収されたことが明らかにされた。オンデレ委員長は、ントゥミ牧師の呼びかけが回収加速の大きな要因であると話した。

### 3 経済

#### (1) 世銀による経済情勢レポート発表

・26日、世界銀行がコンゴ（共）の経済情勢に関するレポートを発表した。レポートによると、2018年の同国の経済成長率は2%、2019年には3.7%まで上昇する見込みだが、2020年には再び後退する見込み。その理由として、現在の経済成長が石油生産の増大ならびに国際価格の上昇に起因するものであることが挙げられ、生産量が減少したり政治情勢が悪化することにより成長が脅かされるとした。そのため、現在実施されている経済構造転換に向けた改革、セクターごとの雇用不平等是正、製造業の質の口上等を引き続き推進していく必要があると述べた。また同レポートにおいて、同国における貨幣流通量が2017年に比べて1.7%減少し、1兆9380億FCFAとなったことも明らかにされた。

### 4 外交

#### (1) 二国間

##### ア 中国

- ・2日、サス・ンゲソ大統領は、3日から始まる第7回中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）に出席するため北京に到着した。
- ・5日、サス・ンゲソ大統領は、北京にて習近平中国国家主席と会談を行った。両者は二国間関係の更なる強化について議論した。習国家主席は中国の「一帯一路」構想への協力をサス・ンゲソ大統領に求め、同大統領は、首脳会合で採択された「FOCAC北京行動計画」を全面的に支持するとともに、同構想内に盛り込まれた8つのイニシアティブを歓迎すると表明した。同時に、同大統領は、中国政府に対して債務の返済期日繰り延べを要請した。
- ・5日、二国間首脳会談の機会を捉え、両国は一連の協力に係る合意に署名した。協力の主な内容は、ポワント・ノワール経済特区開発、「一帯一路」構想推進、相互不課税協定、国道一号線の維持管理に関するコンセッション契約、260億FCFA（約4600万米ドル）の無償資金協力、公共事業としての建設事業者を対象とした職業訓練校の建設等である。
- ・11日、サス・ンゲソ大統領は中国からブラザビルに戻り、同日、レンデルス・ベルギー外務大臣と面会した。
- ・13日、南京宇宙航空大学の一行がブラザビルを訪問し、ディム運輸・民間航空大臣と面会した。両者は、民間航空セクターにおけるコンゴ（共）の若者の職業訓練について議論した。
- ・14日夜、コンゴ（共）北部の森林伐採場で働く中国人2名を含む計3名が、ブラザビルに戻る途中、国道2号線沿いで武装した強盗に襲われ殺害された。この事件を受け、18日、馬駐コンゴ（共）中国大使は、ンブル内務大臣と面会し、コンゴ（共）に在留する中国人の安全確保を優先課題とし、具体的な措置を執るとともに、実行犯を逮捕ししかるべく罰するよう申し入れを行った。
- ・25日、ジョンド社会事業・人道活動大臣、馬中国大使及び国連地域担当代表者は、記者会見を開き、中国政府がWFP及びUNHCRを通じて実施した600万米ドルの支援事業についてのレビューを行った。同事業は、2017年11月に開始され、翌6月に完了したものの。

##### イ EU

- ・25日、2週間前に着任したロール・マシュー・ポーラ駐コンゴ（共）EU大使は、ブヤ国土整備・施設・大型公共事業大臣と面会し、両者が協力するインフラ案件について議論を交わした。具

体的には、90%の工事が完了したとされるミンドゥリーキンカラ間の国道整備事業をはじめ、ポワント・ノワールの自治港整備事業、ブエンザ県ンカイ地区やキュベット県オワンド地区で実施されているスマートシティ化事業等に言及した。

## **（２）多国間**

### **ア 国連総会**

24日、ガコソ外務・協力・在外コンゴ人大臣は、ニューヨークで開催された国連総会の場において一般討論演説を行った。ガコソ大臣は、世界が直面する移民問題に言及した。世界の平和建設のためにコンゴ（共）は、特にアフリカ大湖地域国際会議（ICGLR）ならびにアディスアベバ合意に基づくフォローアップメカニズムを通じて、問題の解決に貢献すると述べた。また、国内問題として2017年12月23日に締結されたプール県停戦合意に触れ、国連プログラムによるDDRに対する支援への感謝を表明した。また環境分野では、同国のパリ協定への支持とともに、同国に広がるコンゴ盆地の森林保全への支援を改めて呼びかけた。